

マーケット・フォーカス

商品：原油

7年ぶり高値、需給改善見通し強まる

- WTI 原油先物価格は供給不安から7年ぶりの高値水準に
- 主要3機関の2022年原油需給見通しは、需給改善方向に
- 不確実性高まる原油市場、22年前半の想定レンジは1バレル=65~90ドル

WTI原油先物価格は供給不安から7年ぶりの高値に

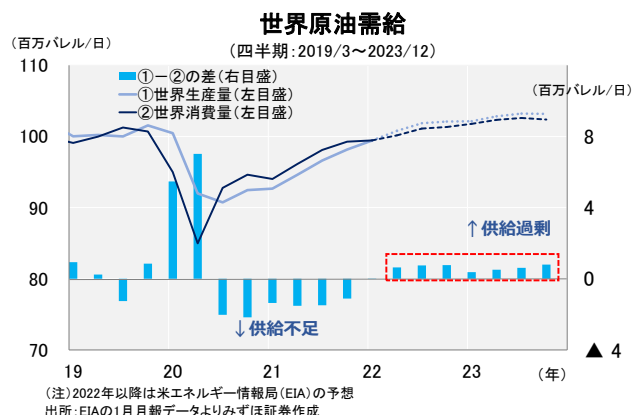
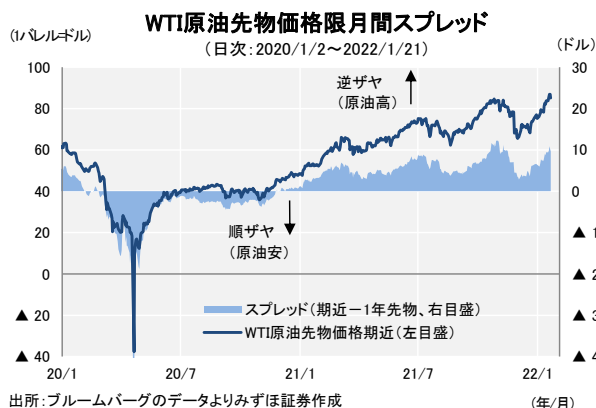
WTI原油先物期近価格は1バレル=80ドル台半ばと7年ぶりの高値水準。期近と期先の価格差が拡大、先高感が強まっている。背景は供給不安の高まり。1/18にイラクとトルコを結ぶパイプラインが火災により一時稼働停止。1/19にバイデン米大統領は原油価格の引き下げに取り組むと約束したものの、先行きは不透明。一方、コロナウイルスの変異「オミクロン株」に対する行動規制導入による影響は限られそうだ。

主要3機関の2022年見通しは需給改善方向に

主要3機関の2022年の原油需給見通しは分かれるものの、全体的には需給改善を見込む。1/11に発表された米エネルギー省(EIA)の月報では、世界原油需給は22年第2四半期から供給過剰に転じると見通しを修正。18日に発表された石油輸出国機構(OPEC)の月報では、オミクロン株の影響は軽度で一時的とみられている。仮に需要減となっても22年第2四半期にかけて北半球におけるドライブシーズンの需要増が相殺し、22年の需要は右肩上がりになると予想。経済協力開発機構(OECD)の原油在庫が5年平均を大幅に下回るため、強気見通しだ。なお、国際エネルギー機関(IEA)は1/19発表の月報で22年の需要見通しを上方修正した。

22年前半の想定レンジは1バレル=65~90ドル

足元は中東産油国やロシア等が需給の調整役となっているが、ウクライナ情勢の緊迫化等から不確実性が高まる場面も想定される。一方、年央以降はOPECプラスや米国の供給増加から高値一服か。短期的な上値めどは90ドル前後とみている。同水準にはオプション市場のコール(期近~3番限)建玉が最も積み上がっている。以上のことから、22年前半の想定レンジを1バレル=65~90ドルとする。



この資料は投資判断の参考となる情報提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。銘柄の選択、投資に関する最終決定はご自身の判断でお願いいたします。また、本資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成したのですが、その正確性、完全性を保証したものではありません。本資料に示された意見や予測は、資料作成時点での当社の見通しであり今後予告なしに当社の判断で随時変更することがあります。最終ページに金融商品取引法に係る重要事項を掲載していますのでご覧ください。

金融商品取引法に係る重要事項

- 当社取り扱いの商品等(外貨建商品等も含む)にご投資いただく際には、各商品等に所定の手数料(投資信託の場合は銘柄ごとに設定された購入時手数料および信託報酬等の諸費用等)をご負担いただきます。債券を当社との相対取引によりご購入いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。
- 各商品等には価格の変動や発行者の信用状況の悪化等により損失が生じるおそれがあります。
- なお、債券の利金・償還金の支払いについて、発行者の信用状況等によっては、支払いの遅滞・不履行が生じるおそれがあります。
- 外貨建商品等の売買等にあたり、円貨と外貨を交換する際には、外国為替市場の動向をふまえて当社が決定した為替レートによるものとします。また、売却時等の為替相場の状況によっては為替差損が生じ、損失を被るおそれがあります。
- 商品ごとに手数料等およびリスクは異なりますので、当該商品等の契約締結前交付書面や目論見書またはお客さま向け資料等をよくお読みください。

商号等：みずほ証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第94号

加入協会：日本証券業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

広告審査番号：MG5690-220124-04